

## <406> 学習評価の変遷から、技術分野で学習評価するコツとは？

学習評価は次の資料に示すように、学力を集団内での相対的な位置づけで評価する相対評価から、生徒自身が身に付けた技術の力を「身につけるべき資質・能力の三つの柱」で判定する観点別評価へと学習指導要領の改訂毎に変遷してきました。この変遷の様子を踏まえて、技術分野との向き合い方を考えてみてはいかがでしょうか？ 変遷の詳細を知りたい方は、次に示す参考資料をご覧ください。

### 資料：学習評価の変遷の概要

改訂年度	学習評価の扱い方	学習評価の主な特徴
S33年告示 S37年実施	評定（5. 4. 3. 2. 1）の 5段階の相対評価	相対評価から 絶対評価へ
S44年告示 S47年実施	評定の <b>絶対評価</b> を加味した 相対評価	↓
S52年告示 S56年実施	<b>絶対評価</b> を加味した相対評価（目標に準拠した評価） 評定＋観点別学習状況（知識・理解、技能、関心・態度）、 所見、	観点別評価へ
H元年告示 H5年実施	評価規準を定めた <b>観点別</b> 学習状況を基本 関心・意欲・態度、創意工夫、生活の技能、知識・理解、	創意工夫 加わる
H10年告示 H14年実施	観点別学習状況で質の評価へ 関心・意欲・態度、工夫し創造、生活の技能、知識・理解	質の評価 へ向かう
H20年告示 H24年実施	観点別学習状況 関心・意欲・態度、工夫し創造、生活の技能、知識・理解	問題解決的な 学習へ
H29年告示 R2年実施	資質・能力を観点別学習状況 知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度	問題解決重視 の学習評価へ

参考資料：学習評価の変遷を含めた学習指導要領の変遷の概要

学習指導要領の内容	目標や内容の特徴、問題解決の扱い方	学習評価の扱い方	学習評価の特徴
S33年告示 S37年実施 授業時数 105, 105, 105 計：315	職業教育→普通教育で 技術は男子向き、 家庭は女子向き 学年単位の内容重視	職業教育的 男女別学  男女別の 指導内容 重視	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">相対評価から絶対評価へ</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>社会的背景に 男子は生産 女子は家庭 学習内容重視 相対評価</p> <p>絶対評価であるが相対評価の影響が裏にある</p> </div> </div>
S44年告示 S47年実施 授業時数 105, 105, 105 計：315	生活に必要な技術の習得 技術は男子向き、 家庭は女子向き 学年単位領域制で内容重視		
S52年告示 S56年実施 授業時数 70, 70, 105 計：245-20~35	男女相互理解で技術・家庭 分野一部領域相互乗り入れ  領域は、学校選択 領域制で内容重視	普通教育 男女共修  男女共通 の 指導内容 重視	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">観点別評価へ</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>絶対評価を加味した相対 評価(目標に準拠した評価) 評価、観点別学習状況、所 見、知識・理解、技能、 関心・態度、</p> <p>知識・技能が 主で問題を解 決、内容を課 題解決する学 習形態 内容&gt;方法</p> </div> </div>
H元年告示 H5年実施 授業時数 35, 35, 35~52.5 計：105~122.5	男女共修 普通教育として の性格出る 領域制、 男女共通した内容の習得		<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">創意工夫加わる</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>観点別学習状況を基本 関心・意欲・態度 創意工夫 生活の技能、知識・理解 評価規準</p> <p>観点別の 相対評価 創意工夫 の問題解 決を加味</p> </div> </div>
H10年告示 H14年実施 授業時数 35, 35, 17.5 計：87.5	領域制 → 内容で編成 A.B(1)~(4)必修、(5)(6)選択 問題解決的な学習重視で 方法>内容	普通教育 男女共修  生活に 必要な 問題解決	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">質の評価へ向かう</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>観点別学習状況 質の評価へ 関心・意欲・態度 工夫し創造 生活の技能 知識・理解</p> <p>本格的な 問題解決 的な学習 重視開始</p> </div> </div>
H20年告示 H24年実施 授業時数 35, 35, 17.5 計：87.5	A~Dの内容で編成 問題解決的な学習重視だが A・B・C・D共に 全必修のため実態は 方法=内容		<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">問題解決的な学習</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>観点別学習状況 関心・意欲・態度 工夫し創造 生活の技能 知識・理解</p> <p>内容増加 で問題解 決遠ざか り工夫し 創造模索</p> </div> </div>
H29年告示 R2年実施 授業時数 35, 35, 17.5 計：87.5	問題解決の重視 問題解決が教科目標へ 問題発見→課題設定→ 課題解決 方法>内容	普通教育 男女共修  問題解決 重視	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">問題解決重視</div> <div style="margin-left: 10px;"> <p>資質・能力を 観点別学習状況  知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度</p> <p>技能は 手段で 思考・判 断・表現 重視</p> </div> </div>

授業時数：それぞれ、1年、2年、3年、3年間の合計の順序